農地・水・環境保全向上対策

明日の上ノ村を考える

みえのつどい　授賞式

槌田劭さん

山田晴美さん

上ノ村環境保全プロジェクト（通称「KKP」）では、平成24年6月10日（日）京都からお二人の講師をお招きして、「上ノ村の『農』を考えるヒント!」と題して講演会を開催しました。

当初は、平成23年度の「三重県農地・水・環境保全向上対策協議会会長賞」を頂いたのを機に大々的な講演会にして、お世話になった方への感謝の気持ちや会の心意気を示すものにしようとも考えたりもしましたが、今まで通り派手さはないけれども堅実な活動にしたいということで、本当に関心のある人に集まってもらう内々のこじんまりとした会にすることとしました。

実はこの講演会は活動三年目の昨年度、体制整備構想（案）を策定する過程で企画したものです。体制整備構想は、どうも義務的になされることが多いようですが、KKPでは、これに正面から取り組むことで、村の将来や農業を真剣に考えようとしてきました。そのため毎月の定例事務局会議や必要に応じて開催する委員会など機会あるごとに議論を積み重ね、また、自治会全戸を対象にアンケートも実施しました。その過程で大きな視点に立って農業を見直す必要性を痛感しました。「案」は事務局でA4用紙10枚にまとめましたが、本年度からそれをベースにより具体的な議論に取り組む予定です。先の講演会は、その手がかりとしての、まさにヒントを得るためのものだったわけです。

上ノ村には営農組合がありません。先のアンケートでもその必要性を感じる意見が多く見られました。農業が営業として成り立つようにすることと、農（百姓仕事）が継続できる環境を構築することは必ずしも一致しません。営農は、合理性を追求する事を意味しますから、逆に耕作放棄地を誘発する原因にもなりかねません。その部分への対応（セーフティネット）も視野にいれながら、農が業として成り立つ方法を模索していきます。

KKPは、日頃の具体的な活動と同時に、地域をデザインするという役割を担っているつもりです。体制整備構想に関わってから、その部分を強く意識するようになっています。あの大震災の後も、「復興」だけが目標になり、相変わらず、国家としてどこに向かうのかという議論もなしに突っ走ろうとしている日本ですが、そういう環境下だからこそ、自分たちの住んでいる村の方向性をしっかり議論し見据えて行きたいと考えています。

懇談会